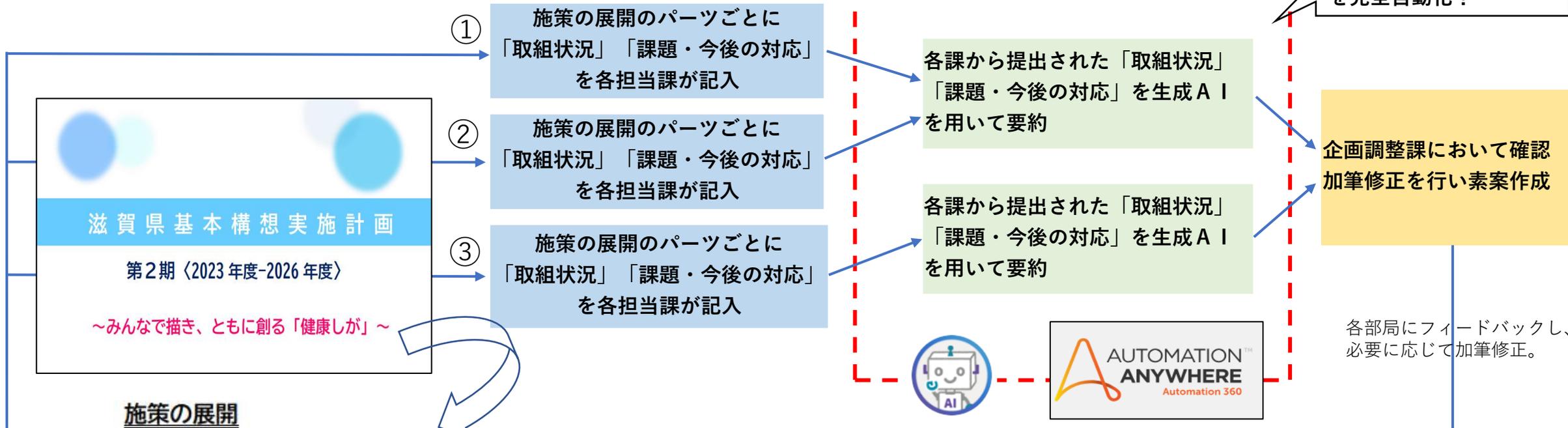


進行管理とりまとめ事務のフローチャート（第2期計画）

Automation Anywhere
を使用し、赤囲い部分
を完全自動化！



施策の展開

文化芸術を楽しむ機会と環境づくり 【文化スポーツ部】

- ① ●びわ湖ホールにおける舞台芸術の公演など、誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体・世代等がつながる場づくりや文化芸術をつなぎ支える人材、文化芸術の創り手・継承者の育成とともに、文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野にいかし、活力ある滋賀を創る取組を進める。
- ② ●県立美術館において、展覧会や教育・交流事業を行うとともに、地域や他施設との連携を進め、文化観光を推進するほか、県内各地にある滋賀ならではの美の魅力の発信に取り組む。

文化財の保存と活用 【文化スポーツ部】

- ③ ●本県文化財の調査・指定・保存修理等を着実に推進するとともに、文化財を保存・活用・発信する拠点の整備や城郭等の本県文化財の魅力に着目した活用・発信プロジェクトを進めるほか、文化財の保存継承を支えるひとづくりや地域づくりに取り組む。

■主な取組状況および今後の対応（政策1）

○健康危機管理体制づくりについては、感染症拡大などの突発的な事態の発生時にも適切に対策を実施し被害を最小化できるよう、高齢者施設・障害者福祉施設に対する研修会の開催や巡回指導を通じて、平時からの感染対策の強化を図った。今後の新興感染症や自然・事故災害等を見据え、令和6年度から施設における感染対策リーダーの育成に取り組み、また、衛生科学センターの建設・整備については、令和9年度中の供用開始に向けて運営体制等の具体的な検討を進める。

○県民のさらなる健康寿命の延伸に向けて、「健康しが」共創会議を通じて企業、大学、地域団体等と連携した健康づくりの取組を行うとともに、若い世代が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組むきっかけづくりのため、SNSを活用して生活習慣病予防等に関する啓発を行った。引き続き、様々な分野と連携した健康づくりを進める。また、カフェイン含量を低減できるオーガニック茶の品種や摘採時期を明らかにするとともに、既存の製茶機械を利用したカフェイン低減の製造方法の検討や志向調査を実施するなど、「食への健康」の推進を図った。リーフ茶の国内需要や販路開拓は、低炭素でおり新たな販路開拓や新商品の開発が必要な状況であることから、低カフェインオーガニック茶のような新たな需要に対応した新商品開発の取組を進めるとともに、さらなる品質拡大に向けて、引き続き摘採回数と選別基準や産地、海外も含めてPRに取り組みしていく。加えて、市町とともにがん検診受診率向上に向けた啓発を行うとともに、質の高いがん検診が実施されるよう、専門家の知見を取り入れながら検診の精度管理の向上に取り組んだ。引き続き、市町や医療機関等と連携し、早期発見・早期治療をはじめとするがん予防に関する意識向上を図る。

○適切で質の高い医療・福祉を提供するため、医療福祉人材の確保に向けて、仕事の魅力発信や学生を対象とした奨学金の貸与のほか、ICTの導入支援による勤務環境の改善、潜在有資格者の再就業支援等に取り組んだ。今後、医師・看護師の地域性を増やすとともに、介護福祉人材については、介護現場革新サポートデスクの設置や先駆的モデル事業所の模範園に取り組み。また、医療や介護・福祉をつなげる全国的なネットワークを構築することにより、さらなる人材の確保・育成・定着に取り組む。

○こころの健康面では、各保健所、精神保健福祉センターにおける電話・面接・訪問相談や、こころのサポートしが（LINE相談）を実施した。また、自殺未遂者に対する保健所圏域での各関係機関とのネットワークによる支援や、身体的な不調で受診するがかりつけ医に対して、うつ病に対する診断・治療技術や専門医師との連携に関する研修を実施した。引き続き、関係機関との連携のもと、こころの悩み寄り添う対策の充実を図っていく。

○文化芸術を楽しむ機会と環境づくりとして、これまで、びわ湖ホール等における舞台芸術の公演、県立美術館における展覧会の開催のほか、芸術文化祭の開催や障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり、英の資源を活用した取組の支援などを進めた。今後も、引き続きこれらの取組を進めるとともに、拠点となる県立文化施設の機能強化に向けた整備や検討を行う。また、「わたSHI GAI 舞く国スポ・舞スポ」や「大阪・関西万博」の開催を機に、滋賀の豊かな文化の魅力を広く発信するなどして、文化観光による誘客に取り組む。

○文化財の計画的な保存修理や、新・琵琶湖文化館の施設整備を進めるとともに、本県文化財の活用・魅力発信を進め、「城」に関連する各種講座、イベント等で、目録数を上回る実績を達成した。本県の文化財を確実に次世代に継承していくため、引き続き、調査・指定・保存修理等を着実に推進するとともに、新・琵琶湖文化館の整備や多岐領域の世界遺産登録に向けた取組、「幻の安土城」復元プロジェクトなど、本県文化財の活用・発信事業を進める。

○県民スポーツ大会・びわ湖マラソンなどのスポーツイベントの開催やスポーツ施設の整備・運営、プロスポーツの振興やスポーツボランティアへの支援等により、スポーツを「する」「みる」「支える」機会の創出に努めた。また、中学校部活動の地域連携および地域クラブ活動への移行に向けて、指導者資格の取得支援、大学生コーチの確保・養成、スポーツコーチバンクの運営など、指導者確保などの取組を進めた。来年に開催を予定している「わたSHI GAI 舞く国スポ・舞スポ」に向けて、会場市町および競技団体と連携して再大会開催に必要な準備を着実に進めるとともに、様々な広報啓発活動を展開し、県民参加でつくる大会に向けたさらなる機運醸成を図っていく。加えて、大会開催に向けて部局横断的に施策を推進するため「レガシー2025企画推進本部」を立ち上げ、開催準備の進捗状況や関連施策、課題等について議論するとともに、開催基本構想に掲げる7つのレガシーの創出を図る。

○その他、魅力ある公園づくりとして、公園利用のマネー向上と快適性の向上を目指し、駐車場の有料化を含む社会実験を行った。また、人と動物が豊かに暮らせるよう「いぬ・ねこ・にんげんしあわせフェスタ」などの開催を通じて、ペットとの適切な関わり方や飼育方法の研修を促す啓発活動を実施した。引き続き、福祉関係者との勉強会等を通じて多機能連携を強め、多頭飼育問題や高齢者が抱えるペット問題の予防・解決を支援していく。

【参考】Automation Anywhereに組み込んでいるコマンドの一例



1 ▶ 開始

1 Excel の高度な操作: 開く "Bots\【test】進行管理シート案 (フラッグ付与) .xlsx"

2 Excel の高度な操作: 開く \$出力先ファイル\$

3 ▾ ステップ "LoGoAIアシスタントとトーク開始"

4 ▶ レコーダー: キャプチャ リンクを左クリック "連絡先" "*滋賀県 | LoGoチャット" ウィンドウの

5 ⌚ 遅延: 1 秒の 定期 遅延を追加します

6 ▶ レコーダー: キャプチャ テキストを設定 "AI" テキストボックスで "*滋賀県 | LoGoチャット" ウィンドウの

7 ▾ ループ: 10 回

8 ▶ レコーダー: キャプチャ ラベルからプロパティ "Name" を取得 "LoGoAIアシスタント GPT-4" "*滋賀県 | LoGoチャット" ウィンドウの 変数 "\$検索該当名\$" として保存

9 ▾ If 文字列 \$検索該当名\$ 等しい (=) "LoGo AIアシスタント GPT-4"

10 ▶ レコーダー: キャプチャ クライアントを左クリック "*滋賀県 | LoGoチャット" ウィンドウの

11 ✖ ループ: 中断

12 ▾ If: Else If 数字 \$ループ回数N\$ 等しい (=) 10

13 ▶ エラー ハンドラー: スロー AllErrors

14 ▾ If: Else

15 ⌚ 遅延: 1 秒の 定期 遅延を追加します

16 ⌚ 遅延: 5 秒の 定期 遅延を追加します

17 ▶ レコーダー: キャプチャ リンクを左クリック "トーク開始" "*滋賀県 | LoGoチャット" ウィンドウの

18 ▾ ステップ "個別の取組状況・課題毎に繰り返す"

19 # 数字: 代入 1 を \$ループ変数_行\$ へ

20 ▾ ループ while 文字列 \$String_ID_取組状況\$ 等しくない (≠)

21 ▾ ステップ "取組状況と課題の取得"

22 # 数字: インクリメント 1 で \$ループ変数_行\$ し、\$ループ変数_行\$ 変数に結果を代入します

23 ▾ ステップ "次の操作対象IDを出力先シートから取得"

【参考】生成 A I (LoGoAIアシスタント GPT-4) の要約結果の一例

■施策の展開

新興感染症にも対応できる強い健康危機管理体制づくりの推進 【健康医療福祉部、病院事業庁】

●自然・事故災害等だけでなく新興感染症を含めた健康危機事案発生時への平時からの備えと、事案発生時に適切な対応がとれる人材の育成を一体的・計画的に行うための組織体制を整備し、保健所をはじめとした関係機関等との緊密な連携のもとで健康危機管理体制づくりを推進する。あわせて、衛生科学センターの機能強化に向けて検討を進める。

【取組状況】

平時における、新興感染症をはじめとした健康危機事案発生時への備えの強化と、健康危機管理事案に関する専門知識や豊富な技術経験を有し適切に対応できる人材の育成のため、感染症予防計画を全面的に改定した。また、滋賀県における健康危機管理の科学的かつ技術的中核機関である衛生科学センターの建替整備事業を、令和9年度中の供用開始のスケジュールに沿って進めた。

【課題・今後の対応】

医療機関等との協定締結により、入院病床等の確保を着実に進め、新興感染症発生時の対応に対する備えを進めるとともに、高齢者施設・障害者福祉施設に対しても研修会の開催ならびに巡回指導の機会を通じて平時からの感染対策の強化を図る。また施設における感染制御リーダーを育成するため、滋賀県感染対策地域支援ネットワーク (Shiga HAI-Net) を令和6年度から運用する。衛生科学センターの建替整備事業については、施設・設備や運営体制等のより具体的な検討を進め、要求水準書に反映していく。

担当課室

健康危機管理課

●新興感染症の感染拡大時に、県立病院において病床確保や発熱外来の設置など、県内の医療体制の確保に取り組む。

【取組状況】

令和5年度は、県から新型コロナウイルス感染症患者用の病床確保の要請があった9月までの期間、専用病床を確保して患者を受け入れた。また、10月以降も入院および外来診療を実施した。

【9月まで】

(総合病院) 最大24床確保、入院患者延べ1,206人、(小児保健セ) 専用病床9床確保、入院患者延べ160人、(精神医療セ) 専用病床2床確保、総合病院コロナ後遺症外来の患者5名(精神科受診が必要な患者)を診察

【10月以降】

(総合病院) 入院患者延べ183人、発熱外来28人、新型コロナウイルス感染症後遺症外来88人、(小児保健セ) 最大9床確保、入院患者延べ109人、発熱外来807人

【課題・今後の対応】

令和6年度は、滋賀県と「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症または新感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定書」を締結し、発熱外来の設置および有事の際の病床確保を行う。

担当課等

(病)経営管理課

担当課が記載した内容を生成 A I に要約してもらおうと・・・

政策	施策の展開	個別評価	
政策1	1	stat1-1-1	新興感染症などの健康危機管理に備え、予防計画を改定し、適切に対応できる人材育成を推進。衛生科学センターの建替整備事業を進め、令和9年度中の供用開始を目指す。入院病床を確保し、高齢者施設と障害者福祉施設への研修会・巡回指導で感染対策を強化。さらに、滋賀県感染対策地域支援ネットワーク (Shiga HAI-Net) を令和6年度から運用し、各施設の感染制御リーダー育成を推進。衛生科学センターリニューアル事業では、更なる具体的な検討を進めていく。
政策1		stat1-1-2	令和5年度は、県からの要請を受け新型コロナウイルス感染症患者用の病床確保と診療を行いました。具体的には、9月までに最大24床を確保し、1,206人の患者を総合病院で、9床を確保し160人を小児保健セで、2床を精神医療セで受け入れました。また、10月以降も患者の受け入れと発熱外来を続けました。令和6年度は、滋賀県と医療提供体制確保の協定書を締結し、発熱外来設置と有事の際の病床確保を行う予定です。